

風土記の丘の花だより²⁷⁵

今、そしてこれから見られる植物(2025年5月31日)

週末毎に天気ぐずれます。明日から6月、雨の季節が近づいてきました。ふと古い歌を思い出しました。グレープだったか、さだまさしだったかあやふやですが、♪アジサイまでは まだまだあるから こっそりと君の名を 呼ばせてください ♪ どれだけの方が「ああ。そんな歌もあったなあ～」と思ってくれるのでしょうか。私がまだ大学生だったころの「縁切寺」という歌です。



トウカンゾウの花が咲いています。ワスレグサの仲間では一番に咲き始める花です。旧柳川家の北側の通路沿いや旧谷山家の庭に咲いています。園芸種のヘメロカリスの仲間です。ヘメロカリスはこんな花の仲間の属名です。例年通りだと、このあと、ユウスゲが咲き、ヤブカンゾウ、ノカンゾウの順によく似た花が咲きます。昔、この仲間は「忘れ草」とよばれ、万葉集には「忘れ草垣間しみみに植えたれど しこのしこ草なお思ひけり」という歌が残っています。



キキョウランの青くて涼しげな花が咲いています。名前にランとつきますが、花の形を見てお分かりのようにランの仲間ではありません。上のトウカンゾウと同じ仲間です。少し前まではどちらもユリ科とされていました。昔から、ちょっとかわいい花には「ラン」と付けることがよくあったようです。この写真は旧谷山家の庭で撮りましたが、旧小早川家の南の斜面にもあります。暖かい地方に生える植物で、和歌山市にも自生しています。斑入りの品種もあって、庭に植えられる場合もあるみたいです。



ドクダミの花がたくさん咲いています。独特の悪臭と繁殖力の強さで嫌われがちですが、花は純白でとても美しいです。葉もよく見るとハート型でかわいいですね。子どもの頃、親はこの草を「十葉・じゅうやく」と呼び、私が転んですりむいたり、でんぼ（おでき）ができたりした時に、この葉を炙って傷口に当ててくれました。(とても いやでした) このように、昔から何にでも効く薬草として重宝されてきたのですが、今となっては、厄介な雑草でしかないのでしょうか。



では、薬草つながりで、もう一種。これはチドメグサです。「血止草」なんて名前もストレートですね。少し湿った所に生え広がり、地面を覆い隠します。少し前まではセリ科で、ニンジンなどの仲間とされていました。今の分類ではウコギ科で、ヤツデやタラノキなどの仲間とされています。私の知人で、カに刺されたらこの葉を貼っている男がいました。効いたのか、効かなかったのかは知りませんが、少しの出血なら効くかも知れませんね。試してみませんか？ 松下